

広報さとる



発行日:2025年10月31日(NO.043) 発行所:トヨタ自動車労働組合

発行人:飯田智士 編集人:井出さとる 印刷所:(株)トヨタエンタプライズ

令和7年 9月定例会 を終えて

9月議会は、昨年度の税金が正しく使われたかをチェックする「決算審査」が大きなテーマでした。難しい言葉が飛び交う議会ですが、その中身は私たちの暮らしや、この街の未来に直結する大切なことばかり。

特に今回は、変化の大きい時代だからこそ「みんなで一緒に未来をつくっていくこと(=官民共創)」が重要だと、改めて実感する議会になりました。

裾野市の挑戦「スタートアップ」

今回の議会では、大西副市長が推進する「スタートアップ(新しいビジネスを始めること)支援」の具体的な内容が明らかになりました。

スタートアップへの挑戦者を応援するこの取り組み。実は、これまでの裾野市の年間創業件数は目標10件に対し1~2件と、少し寂しい状況でした。その原因として、相談窓口がバラバラだったり、役割分担がハッキリしていなかったりと、挑戦する人にとって決して優しい環境ではなかったことが挙げられます。相談先が変わるたびに「振り出しに戻ったような感覚になる」という声もあったそうです。

そこで裾野市は、商工会や金融機関と連携し、相談から事業の安定までをワンストップで応援する仕組みづくりを検討していくとのことでした。

私が特に重要だと感じたのは、「日頃からの情報発信」です。今回のように、市がどんな未来を描き、どんな挑戦を応援しようとしているのか、普段から市民の皆さんと共有する「対話」の姿勢が、これからの裾野市には不可欠です。

市役所の窓口がスムーズに!

今回の審査で、多くの議員から評価する声が上がったのが「市民課の窓口業務改革」です。

以前からレポートでお伝えしてきましたが、スマホで予約できたり、手続きの動線が見直されたりしたことで、待ち時間がぐっと短縮されました。

一方で、「新しいシステムがまだ浸透しきれていないのでは?」という指摘もありました。便利な仕組みも、使えなければ意味がないですよ。これからも「誰一人取り残さない」視点で、より分かりやすい情報発信の必要性を感じています。

また、市役所内のDX(デジタル化)も進んでいます。書類を手で運ぶ手間が省けたり、必要な情報を探す時間が短縮されたりと、職員さんの働き方が改善されているようです。

こうした業務効率化が、さらなる市民サービスの向上につながるよう、引き続き期待し、チェックしていきます!



未来をみんなで語る!対話集会を開催!

「人口減少が進む集落地域で、これからも安心して楽しく暮らすために何が必要だろう?」そんな切実な思いから、8月20日に須山研修センターで、「未来を語る意見交換会」を開催しました。

当日は、高校生から人生のベテラン世代まで、約50名もの方々にお集まりいただきました。多くの意見が飛び交う中で、複数の参加者から「これまでも意見交換会はあったが、出た意見がその後どうなったか分からない」という、重要な指摘がありました。

貴重なご意見を、議会での議論や行政への提言に繋げます。

未来への投資① 裾野駅西口の賑わいづくり

長年の懸案だった裾野駅西口エリアの再開発が、いよいよ本格的に始動します!市が所有する駅前土地を活用して、裾野市の新しい顔となる「賑わいの拠点」を、民間の力とアイデアを借りて創り上げていくプロジェクトです。

どんな場所になるの?今回の事業者公募では、必須条件として以下の2つが盛り込まれました。

- ・ 商業施設:市民アンケートでも要望が多かった飲食店や物販店などを誘致します。
- ・ 公共機能:子育て支援施設や、誰もが気軽に集える交流スペースなどを整備します。

令和9年中のオープンを目指し、市民の皆さんが「あったらいいな」と感じる魅力的な駅前空間を実現していきます。市が土地を提供し、民間が資金とノウハウを提供する「LABV」という新しい官民連携の手法も学びながら、市民の皆さんと一緒に未来の駅前をデザインしていくことが重要です。



子どもたちの未来のために。 教育や子育て環境のいま

少子化が進む中で、子どもたちにとって最適な学びの環境をどう作るかは、裾野市の大きな課題です。

- ・ 学校再編:向田小学校と東小学校の統合がありました。この経験で得たノウハウを、今後の学校再編に活かしていく必要があります。
- ・ 放課後の居場所:放課後児童室の需要は、児童数の減少に関わらず高まっています。安心して過ごせる居場所づくりは待ったなしです。
- ・ 部活動の地域移行:なかなか目に見える形で進んでいないのが現状です。保護者や地域の皆さんの不安に応えられるよう、市はもっと具体的な進捗を示す必要があります。

審査を通じて、市民の皆さんや議会への「報告・連絡・相談」が不足しているのでは?と感じる場面が少なくありませんでした。

「いつの間にか話が進んでいた」という事態を防ぐためにも、行政と市民、そして議会がもっと密にコミュニケーションを取れる仕組みが必要だと痛感しています。

編集後記

決算審査は、膨大な資料とのにらめっこ。数字がズラリと並んだ書類を読み解くのは、正直なところ、なかなか骨が折れる作業です。

でも、その数字の向こう側には、市民の皆さんの日々の暮らしがあります。これからも、皆さんの声を市政に届け、この街の未来のために全力で汗をかいていきます。

日々の活動はFacebookなどでも発信していますので、ぜひご覧ください!皆さんの「これってどうなってるの?」という声が、私の活動の原動力です。

